

薬剤師の対人業務強化に向けた調剤の外部委託化の有効性と課題 -アンケート調査を通じた薬剤師と医療受容者の意識分析-

加茂 薫

【論文要約】

本研究は、日本政府および厚生労働省が薬剤師の対人業務強化を目的として検討している調剤の外部委託化について、実効性のある手段として機能するかを検証するものである。これまでの調剤の安全性を維持するとともに、薬剤師が調剤を外部に委託することにより得られる時間を対人業務強化に充てる意識を高める考え方や、医療受容者である患者や地域住民にメリットを提供する方法、さらには、規制改革会議やワーキンググループなどで議論されていない問題点を抽出し、各々の課題を明らかにするため、薬剤師および一般市民を対象にウェブアンケート調査を実施する。そして、その結果を分析することにより、調剤の外部委託化の有効性を評価する。

本論文は以下の章で構成されている。第1章では、本研究の背景と目的について述べる。特に、薬剤師に求められる役割と現状の乖離について詳細に論じる。第2章では、調剤の外部委託化に関連する先行研究を多面的に調査し、既往研究における課題を整理する。その上で、本研究の特徴を明確にし、先行研究との相違点や位置づけを示す。第3章では、規制の基となる法律の解説、改正の必要性、調剤の外部委託化の導入が予想される薬局業界全体の状況を取りまとめる。また、国家戦略特区提案の状況に触れ、薬剤師の心因的負担を軽減する賠償保険についてもまとめる。薬局が直面する現状や患者・地域住民との関わりについても整理する。第4章では、薬剤師を対象に実施しているウェブアンケート調査の結果を分析し、薬局に勤務する薬剤師の対人業務強化に対する受容意識を検討する。また、法改正後の薬剤師の働き方についての意識調査結果も分析する。第5章では、第4章にて用いているウェブアンケート調査データを用い、薬局以外の分野で勤務する薬剤師を含める分析を行い、調剤の外部委託化が患者および地域住民への影響にどのような可能性をもたらすかについて検討する。第6章では、国家戦略特区提案が行われている大阪府において、1,000名の府民を対象とするウェブアンケート調査結果を分析し、医療受容者の期待や不安を明らかにしている。医療受容者の視点から見た調剤外部委託化の有効性について論じる。第7章では、各章で得られた分析結果を基に、調剤の外部委託化の有効性について考察する。また、委託薬局と受託薬局の経済的側面についても検討する。第8章では、研究全体の結論をまとめるとともに、今後の課題と薬局経営から見る調剤外部委託化の将来展望について述べる。

本研究の成果は、調剤の外部委託化を通じて薬剤師の対人業務を強化し、患者および地域社会に対する QOL を向上させるための基盤を提供することである。

以上